

## 2014年度支部企画 湊町新潟の中心市街地見学会

## 1. はじめに

東北支部では支部企画として各県持ち回りで見学会を企画、実施している。昨年度は山形市で開催されたのを受け、本年度は新潟市中心市街地の見学会が10月11日(土) 午後開催された。ここでは、その見学会の実施状況を報告したい。

## 2. 湊町新潟の再生、古町花街の存在

実際にまちあるきをするにあたり、新潟大学の岡崎篤行教授によって「湊町新潟の再生」と題したレクチャーが行われた。そこでは、幕末の開港五港の一つとなった新潟が1655年(明暦年間)に移転したことや城下町に匹敵する歴史を有すること、その影響もあり中世的境内空間がほとんどなく、近世的な町空間が全域にわたって卓越しており、近世湊町の代表としての価値を有することが示された。また、大規模な震災被害に遭うことがなく、多数の歴史的建築が残存することで魅力的なまちなかが存在しているとの紹介がなされた。

近年は大規模小売店舗の撤退など、地方都市中心市街地が抱える共通課題を有している古町地区において展開されてきた花街文化についても紹介があった。江戸期には4箇所で開催されていた料亭中心の伝統的花街である。現在は古町通を挟む東西新道に料亭約16軒が立地しており、その規模は全国有数であることが紹介された。花街文化には芸妓の存在が不可欠であるが、昭和初期にはその数は300を超えたものの、昭和51年には110人、そして現在は約25人となっている。しかし古町芸妓は全国でも例を見ない、会社組織での芸妓育成を進めており、社員として高校卒業後に芸妓見習いとして「就職」してくる女性などもあるという特徴も紹介された。

## 3. まちあるきの概要

新潟駅前レクチャーを済ませた後、まずは路線バスに乗り、現役国道として供用されている橋として重要文化財指定されているのは他に日本橋しかないという、信濃川にかかる萬代橋を見学後、開港五港の税関として唯一現存している旧新潟税関が立地している周辺を整備し、そこに旧第四銀行住吉支店の建物を移築復元しているみなとびあへと移動、それらの建物に関する説明を受けた後、下町(しもまち)の町屋群、またかつての堀割再生に取り組んだ事例として早川堀を通りながら、かつての廻船問屋であり、現在保存活用が進められている小澤家住宅において新潟町屋の典型的な様式である丁字

型、平入り、高窓付き雨戸、張出し二階、そして豎羽目を視察(小澤家住宅の場合、隣地を買収して拡張しており、邸内からは庭園にもアクセスできる)した。さらには西大畑界隈へ移動、旧日銀支店長邸宅である砂丘館や旧斎藤家の夏の別邸、行形亭など、お屋敷や洋風様式、洋館付き住宅などが建ち並ぶエリアへと足を伸ばした。これらの建物はやはりレクチャーでも指摘されたとおり、湊町としての隆盛を感じさせるものであり、また震災等の被害を受けていないことが大きく影響していると感じさせた。

最後は日が暮れかける時間帯に古町花街へと足を伸ばし、木造三階建て、二百畳敷の大広間を有する古町の代表的な料亭鍋茶屋を始めとしてそのアプローチの工夫、周辺に立地する料亭の建築の特徴なども紹介された。

見学会としては以上で解散となったが、その後、有志によって古町の料亭金辰に移動、お座敷遊び等、新潟の都市文化の奥深さを感じながら活発な意見交換も進められたことも補足しておく。

## 4. おわりに

建物や町並みだけでなく、その背景となる都市文化の多彩さ、華やかさを実感できる見学会となった。実施に際しては前述の岡崎篤行教授のほか、松井大輔助教、都市計画研究室の学生各位のご尽力があった。また新潟県都市計画協会、(一社)建設コンサルタンツ境界北陸支部に後援いただいた。ここに記して感謝の意を表するものである。

(文責：長岡造形大学 澤田雅浩)

